温かい色　柔らかい手触り　患者さんの安心感につながる　認知症マフ作りに取り組んでます！

認知症マフについて

耳原総合病院

認知症マフとは、筒状になったニット小物です。色鮮やかで温かなマフには、ボタンやリボンなどの飾りがついており、認知症の患者さんが中に手を通すなどしてマフに触れることで、落ち着き、安心感を得られると言われています。2010年頃からイギリスで始まり、日本でも少しずつ広まりつつあります。

認知症の患者さんは記憶障害があり、日常の出来事を覚えておくことが難しいとされています。一方で感情記憶は残ると言われています。つまり、細かい出来事は覚えられなくても、そこで感じた気持ちは残るということです。そのため、マフに触れた心地良い感覚が、記憶障害によりもたらされるストレスや不安を軽減する効果が期待されています。

耳原総合病院で2か月に1回開催している認知症カフェ「オレンジカフェ」でも、マフを作る取り組みを始めました。そして、入院中の患者さんにお渡しして、マフの効果を試しているところです。

次回、オレンジカフェは3月8日（土）14時～耳原総合病院2階みみはらホールで開催します。マフの寄贈も大募集中です。

（救急総合診療科　医師　松瀬房子
認知症認定看護師　春木康子・小林孝他）

50枚のマフ、完成！

認知症マフ

オレンジカフェ

認知症マフをサービス付き高齢者住宅（サ高住）ひまわりの家・蔵前へプレゼント！

新金岡支部

新金岡支部では、編み物サークルの作品を社会的な活動と結び付けられないか模索していました。介護施設や病院で使われている「認知症マフ」の取り組みを知り、社会との接点にと世話人会で紹介し、地域のサ高住ひまわりの家・蔵前に入居されている方たちへクリスマスプレゼントとして贈ろうと積極的に取り組み始めました。

2024年8月号支部ニュースでこの取り組みを知らせると、毛糸の提供をはじめ、他のサークル利用者の方、夫の毎日の入院付き添い時間に作りたい方など、編み物サークルに多くの方が参加してくれるようになりました。

社会的な目標を持ったモノ作りは、作り手たちの気持ちと発想を豊かにしてくれます。サークルの班長Kさんは、編み物づくりの技術を生かし凝った作品づくり、Yさんは子ども食堂主催のクリスマス会で壁面飾りの毛糸ボンボンや手足の可愛いマスコット人形づくり、私は毛糸のあみぐるみ人形など、さまざまな制作に発展していきました。

サ高住のクリスマス会が迫り、45枚完成していたところ、マフの取り組みを知った方が突然5枚作って持ってきてくださり、友の会にも入会してくれました。

12月18日に大きな手作りのサンタ袋に合計50枚のマフを詰めてプレゼントしました。

このマフの利用で少しでも心穏やかな時を過ごすことができれば、幸いです。

（新金岡支部　長井佐智子）

入居者の方へ認知症マフをプレゼント

実際に使用した感想　素材やデザインに癒されて

認知症マフは、ベッド生活の方や認知症で介護抵抗が強い方に職員がマフに手を通して使用しています。毛糸の温かみを感じたり、凝ったデザインを見て癒されたり、安心して過ごされています。

また、職員と利用者さまにとって、お互いが安心して処置を行う・受けることができ、とても助かっています。

本当にありがとうございます。

（ひまわりの家・蔵前　風早 施設長）

医療の現場から Vol.25

母子ケアチームについて

耳原総合病院では毎年たくさんのいのちが誕生します。皆さんの中にも「私は耳原で産んだ」とか「耳原で産まれた」という方がいらっしゃるのではないでしょうか。一つのいのちの誕生は人生の中でも一大イベントです。

そんな中、社会の変化と共に、生きにくさやたくさんの悩みを抱えた妊婦さんと出会うことが増えました。「望まない妊娠」「赤ちゃんの父親は妊娠を告げると音信不通になった」「一人で育てていけるだろうか」「経済的にも不安定」「障害を持っている」「周囲にサポートしてくれる人がいない」「若年」「虐待を受けて育ったので育て方がわからない」など悩みは多岐に渡ります。

出産前後はホルモンバランスが不安定になるためメンタル不調をきたし「マタニティーブルー」「産後うつ」になる方も少なくありません。

そのような悩みに病院内の多職種が協働し関わる「母子ケアチーム」が2020年から活動しています。妊娠期から、安全に安心して出産を迎え、妊婦さんはもちろん、産まれた赤ちゃんが健やかに成長し発達することをサポートします。産婦人科医師、小児科医師、精神科医師、助産師、看護師、保健師、医療ソーシャルワーカーで構成されています。

SNSが進化し、人と人との関わりが希薄になる中、孤立した妊婦さんが抱える厳しい現実。出産という新たないのちの始まりの機会に「母子ケアチーム」が密に関わることで、新たな家族の出発をこれからも支援していきたいと思います。

耳原総合病院
サポートセンター
医療福祉相談室
牧　稚子